

滋賀県湖南市

- 一体的実施開始を機に、国保加入者を対象に実施していた糖尿病性腎症重症化予防対象者を後期高齢者に拡大。
- 既存の事業を一体的実施の視点を踏まえて実施し、フレイルサポーターの養成や100日チャレンジなど新規事業も開始。

市の概況（令和3年4月1日時点）

人	口	54,838人					
高	齢	化	率	24.7%			
後	期	被	保	険	者	数	5,952人
日	常	生	活	圏	域	数	4 圏域

【実施体制】



※上記以外に集団接種会場での啓発のため、新型コロナウイルスワクチン対策室の協力も得る。

課を超えて既存事業を整理し可能な範囲で1本化したことで、複数課の職員同士が互いの仕事を見える化し、事業同士を活用し合える関係性を構築◎

取組経緯

- 後期高齢者の健診については、以前より健康政策課と保険年金課が協働して実施。健診の事後フォローは広域連合が主となって行い、事業実施にあたっては高齢福祉課が連携し必要時訪問指導に同行。また介護予防事業は高齢福祉課が主となって実施しており、状況に応じて健康政策課の地区担当保健師が同行するなどの連携のみであった。
- 国の指針を受け、各課が個々に行っていた後期高齢者の保健事業と介護予防事業について、3課が一体となって実施することで、事業の不要な重複事業・事務をなくし、より対象者へ効果的かつ円滑に事業を行っていくことを目的に、令和元年度より一体的ワーキンググループとして3課の課長・担当者が集って実施に向けた計画を開始。令和2年度より、各市町の取り組みを参考にしながら事業を開始。

企画・調整等

○KDBの活用

地域分析として、圏域ごとの医療費や健診結果および健診時の問診内容から、健康課題を抽出するなど活用している。

滋賀県は75歳以上の健康診査を受診できる人に条件があるため、収集できるデータ自体にバイアスがかかってしまっている。今年度は、まずは幅広くデータをとるために様々な保健事業でフレイル質問票を活用し、データ収集に努めている。

ハイリスクアプローチ

○糖尿病性腎症重症化予防

広域連合の受診勧奨事業と、国保事業の糖尿病性腎症重症化予防プログラム事業が連携できる形とすることで、データ抽出や医療機関との連携方法を一本化し、各事業では対象とならなかった対象者層へのフォローを強化。

○服薬指導

保険年金課が実施していた服薬通知事業の結果を分析整理し、高齢福祉課が実施する薬剤師情報交換会の場を借り、市内薬局に勤める薬剤師へ対象者の選定や薬局での指導について協力をお願い。薬剤師の協力により対象者はいつも利用する身近な薬局で助言を受けられる環境となっている。

○健康状態不明者把握事業

健康状態の確認にはフレイル質問票を活用し、ゆくゆくは健診受診者や他の保健事業参加者との比較も見据えてデータ蓄積をしている。健診受診勧奨の個別訪問は、国保事業の特定健診未受診者対策事業の未受診者訪問事業と同時実施とし、その地域に詳しい各小学校区の地区担当保健師に訪問を依頼している。また、対象者の選定および訪問後の様子から事後フォローが必要となる場合を見据えて、訪問の対象者リストは高齢福祉課・地域包括支援センターと事前に共有している。

ポピュレーションアプローチ

○他課との連携による様々な事業機会を捉えての啓発

- ①お口のお手入れ100日チャレンジ事業
健口体操と任意の項目に100日間挑戦してもらい、達成度に合わせ健康グッズを進呈。
- ②いきいき百歳体操体力測定会
市内各会場へ理学療法士や保健師、看護師が出向き、1年に1回の体力測定を実施。
- ③介護予防普及啓発事業出前健康講座
フレイルに関する地域課題に沿った健康教育をフレイル質問票を活用しながら実施。
- ④その他フレイル啓発事業
フレイルに関する啓発・情報提供・健康教育を実施。
- ⑤フレイルサポーターステップアップ事業
フレイルサポーターと地域ささえあい推進員の協働を図るため交流会を兼ねた講座を実施。

今後の展望、課題

「つながり」を1つのテーマにし、事業展開をしている。新しい生活様式を強いられる中、市民、職員等に無理が生じない事業のあり方を検討してきた。今年度は課を超えて既存事業を整理し可能な範囲で1本化したことで、複数課の職員同士が互いの仕事を見える化し、事業同士を活用し合える関係性を構築できたことは成果のひとつであり、また、地域のリーダー同士が顔の見える関係を作ることが出来たのも成果と考える。市民のタイムリーな「現状」を把握するべく、令和3年度より一体的実施の事業全て質問票を用いたデータ収集を行っている。次年度以降もデータをさらに蓄積しながら、多角的に分析し、次年度以降の事業展開につなげていきたい。